

第3回女性医師の生き方セミナーを開催

このほど、第3回女性医師の生き方セミナーが2月23日（土）に金沢大学附属病院女性医師メンター、金沢大学附属病院、金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー、石川県女性医師支援センター、石川県、石川県医師会の主催により、附属病院の宝ホールで開催されました。

女性医師メンターは、女性医師の身近なところで相談に応じ助言を行う先輩医師のことで、附属病院では、森下英理子准教授（血液内科）、東馬智子助教（小児科）、中西清香助教（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、小室明子助教（麻酔科蘇生科）の4人の医師が石川県からの委嘱を受け、女性医師メンターとして活動しています。

このセミナーは、多くの悩みを抱えながら日々の診療に従事している女性医師やこれからの世代を担う女医学生を中心に、医師としての生き方を考える機会の提供を目的としており、石川県内医療機関の勤務医、研修医及び医学生など約40名が参加しました。

セミナーは東馬智子メンターを司会とし、上田博芳珠記念病院長の開会あいさつの後、第1部の講演会では、金沢市立病院呼吸器内科医長の古荘志保先生から「育児短時間勤務制度を利用して」、公立松任石川中央病院腎高血圧内科医長の高枝知香子先生から「内科医になって20年—私のワークライフバランス—」と題してご講演いただきました。

また、第2部のグループディスカッションでは、講師、女性医師メンター及び参加者が5つのグループに分かれ、和やかな雰囲気の中、仕事と育児の両立や勤務への相談など有意義な意見交換が行われました。

参加者からは、「たくさんの刺激を受けた。」「とても参考になった。」「同じような悩みや思いが分かり心強く感じた。」「いろいろな働き方やライフスタイルがあることを知った。」「人生において何を選択すべきか、学生のうちから考えても早すぎではないと思った。」「勇気付けられた。」など好評をいただき、盛会のうちに終了しました。



あいさつする上田博芳珠記念病院長



育児短時間勤務制度について講演する金沢市立病院の古荘志保医師



市立病院での取り組みについて述べる
高田重男金沢市立病院長



内科医20年のワークライフバランスについて講演する公立松任石川中央病院の高枝知香子医師



第2部のグループディスカッションで和やかに意見交換する参加者



閉会のあいさつをする赤澤純代金沢医科大学講師